

## 国際部報告

## 第7回 WFAS 世界鍼灸学術大会（フランス・ストラスブール）参加報告 —WFAS University Cooperation Working Committee と WFAS Standard Working Committee—

若山 育郎<sup>1)</sup>、高澤 直美<sup>1)</sup>、石崎 尚人<sup>1)</sup>、津嘉山 洋<sup>1)</sup>、篠原 昭二<sup>2)</sup>、形井 秀一<sup>3)</sup>

- 1) 全日本鍼灸学会国際部
- 2) 全日本鍼灸学会編集部
- 3) 全日本鍼灸学会参与

### 要 旨

2009年11月3日～7日に開催された第7回WFAS世界鍼灸学術大会（フランス・ストラスブール）においてWFASの標準化戦略に関わる2つの委員会が開催され、全日本鍼灸学会（JSAM）から国際部を中心に6名が参加した。WFAS University Cooperation Working Committeeでは鍼灸国際教科書に関する提案、WFAS Standard Working CommitteeではWHO（世界保健機構）やISO（国際標準化機構）で取り上げられていない項目を中心とした鍼灸の標準化に関する作業グループを作る提案がなされ、実行されることになった。しかしながら、中国以外の参加国にそれらのプロジェクトの基本方針、作業手順などの詳細が十分には説明されないまま進みつつあり、これに対してJSAMとしては今後さらに積極的に対応していかなければならないと考えている。

キーワード：世界鍼灸学会連合会、鍼灸国際教科書、鍼灸の標準化、国際標準化機構

### I. はじめに

昨年の世界鍼灸学会連合会（World Federation of Acupuncture-Moxibustion Societies: WFAS）世界大会（2009年11月3日～7日）期間中2つの重要な委員会が開催された。WFAS University Cooperation Working CommitteeとWFAS Standard Working Committeeである。

WFAS University Cooperation Working Committeeは、2007年北京でのWFAS20周年記念大会期間中に初めてpreparatory meetingとして開催され

た。その概要については既に本誌に報告しているが<sup>1,2)</sup>、この委員会の主旨は、鍼灸教育の標準化について各大学間で検討しようというもので、この時には9か国から20大学が参加しお互いに大学の自己紹介を行った。しかしながら、具体的な議論はなされず、事業内容の検討は翌年に持ち越しとなった。翌2008年度は本来WFAS世界大会が韓国で開かれる予定の年であったが、WHO Congress on Traditional Medicineが北京で開催されることが既に決定していたため、WFAS世界大会は

---

筆頭連絡先：若山 育郎 〒590-0482 大阪府泉南郡熊取町若葉2-11-1 関西医療大学

Wakayama Ikuro: Kansai University of Health Sciences, 2-11-1 Wakaba, Kumatori, Osaka 590-0482, Japan

E-mail: wakayama@kansai.ac.jp

順延され、WHO Congressの一部会としてWFAS サテライトシンポジウムが開催された。その期間中に第2回目のWFAS University Cooperation Working Committeeが開催されたが、やはり議論の進展はあまりなく、最後にWFAS事務局からとりあえずの方針として教科書の作成についての検討をしていくという提案がなされた。

一方、WFAS Standard Working Committeeは、2008年度のWFAS執行理事会でその開催について発議がなされたが、現実的には公式の委員会が開催されず、日本、中国、フランスの代表による非公式会議がもたれるにとどまった。

中国は、2008年より国際標準化機構 (International Organization for Standardization: ISO) に対する働きかけを中心とした鍼灸など伝統医学の標準化に関わる活動を積極的に展開しているが<sup>3)</sup>、WFAS University Cooperation Working CommitteeとWFAS Standard Working Committeeの設立に関しても、国家的な標準化戦略の一環であると考えられる。

**WFAS University Cooperation Working Committee**

2009年11月6日の午後4時から欧州議会のN 2.1会議室で執り行われた。まず、WFAS事務局長の沈志洋 (Shen Zhixiang) 氏より開会の挨拶、2008年度の委員会報告があった。2008年度委員会では22の大学代表者が集まり、本委員会が正式に発足したこと、また鍼灸、鍼灸師とその教育レベルの向上、世界の大学間ネットワークの促進、そのネットワーク内に教育・臨床のための中心となるセンターを構築することなどを策定したことが述べられた。

次いで、譚源生 (Tan Yuansheng) 氏によりスライドを用いて昨年度の活動報告と鍼灸国際化の現状が述べられた (図1)。具体的には、鍼灸国際教科書についての検討、新しい鍼灸技術についての検討、国際的鍼灸試験に関する検討の3つについて説明があったが、その中で最も優先順位の高いのが国際教科書であるということであった。また、驚いたことに鍼灸国際教科書のドラフトが既に出来上がっていてその場で配布された (図2)。驚いたというのは、昨年の本委員会では教科書の作

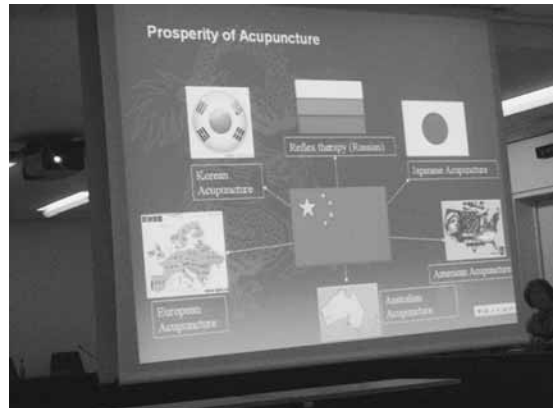


図 1



図 2

成を当面の主たる目標にするというアナウンスはあったものの、その作業手順などに関するディスカッションは全くなかったからである。後にわかったことであるが、今回配布されたのは、WFAS会長の鄧良月 (Deng Liangyu) 氏らが監修して既出版されている教科書 (図3) の英訳版の目次と第1章であった。その後の議論は、この国際教科書が中心となった。

国際鍼灸教科書について参加各国からはいくつかの意見があった。その中で問題となったのは、各国における鍼灸の多様性をどのように扱うかと



図3

いうことであった。各国語の翻訳バージョンをつくる方がよいという意見も出た。日本（形井）からは、世界にはいろいろな教科書があるため、まずそれらを調査した後に本格的な内容の検討をすべきであるという意見を出した。また高澤からは、特に日本における事情を例に挙げて、各国には独自の教科書があるが、現行の国家資格のガイドラインとは違う教科書を受け入れることは困難ではないかという発言を行った。それらに対して、沈事務局長より、いろいろな意見があると思うができるだけそうした意見を聞かせてほしいということ、また日本や中国など制度が整っている国については補助的な教科書として利用できるし、他の制度が整っていない国では重要な位置付けになるという旨の返答があった。

さらに形井、高澤より各国バージョンを作る用意があるのか、あるとすれば多くの国の意見を取り入れなければならないが、具体的な方策はあるのかという質問をしたところ、鄧会長よりWFAS国際教科書を基本的なものとして、それ以外については各国による柔軟性を持たせてよいのでは

ないかという返答があった。

カナダの出席者からは、第8章（今回WFASより提示があったドラフトは7章からなる）として、「多種多様な鍼灸スタイル」という章を新たに設けてはどうかという提案があった。沈事務局長からは、WFASで作成する国際鍼灸教科書について、それを基礎的なものとするのか、あるいは包括的なものとするのかについて、またその他の提案、意見があれば2010年2月6日（3か月後）までに出してほしいとの依頼があった。

米国の出席者から各国の国家試験に適合したものでなければどの国もその教科書を採用しないだろう、従ってWFAS国際鍼灸教科書は基本的な内容に絞るべきであること、また内容の25%程度は各国の事情に合わせて柔軟な内容にすべきであるとの発言があった。沈事務局長から再度3か月以内に教科書作成に関するアイデア、アウトライン、内容に関する意見を提出してほしいとの依頼があった後、鄧会長の閉会の挨拶で終わった。参加者の紹介や参加者リストがないため、どの国が出席したかは十分にはわからないが、今回は昨年（22か国）よりも少なく、また中国系以外の参加者も少なかった。日本からは、筑波技術大学、明治鍼灸大学、鈴鹿医療科学大学、関西医療大学が参加した。その場の印象ではあるが、特に前もって連絡があった者でなくとも誰でも参加して発言できる会議にであるように思えた。今後WFAS事務局に注意を喚起して行かねばならない点である。

#### WFAS Standard Working Committee

本委員会は当初University Cooperation Working Committee終了後同じ会場で引き続き行われる予定であったが、欧州議会の閉館時間の関係で急遽ストラスブール市内のレストランに場所を変更して開催された。

会場では、当日の議案が書かれた1枚の資料と“WFAS Standards (Draft)”なる冊子（図4）が配布された。本委員会も参加者はどのように招集されたかは明らかではなく、誰でも行けば参加できるといった状況であった。議案資料に「参加者」としてWFAS執行部と各国よりの鍼灸専門家と

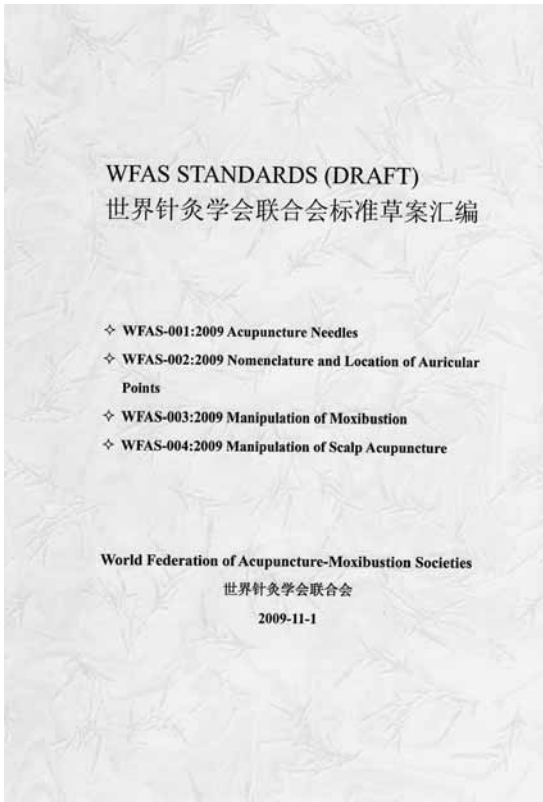


図4

ある通りである。ホストは劉保延 (Liu Baoyan) 氏であった。

会議は、ホストの劉氏による議案の説明から始まった。引き続いてWFAS標準を作成するための手順について解説があった。すなわち、ワークグループ (Work Group: WG) と専門家による評価グループ (Expert Panel) をつくり、WGは具体的な作業を受け持つ。評価グループはWGの提案を評価、決定する作業を受け持ち、決定事項をWGに伝える。そうして最終的には世界に認められるような標準化案を作成する。また、各国にはそれぞれの国において既に標準化されているものもあるが、WHOにおける標準化作業の経験を踏まえて、それらの良い点を採用するといったことであった。

配布されたWFAS Standard Draftには当面の標準化の対象として以下の4つが挙げられていた。

1. WFAS-001: 2009 Acupuncture Needles

2. WFAS-002: 2009 Nomenclature and Location of Auricular Points

3. WFAS-003: 2009 Manipulation of Moxibustion

4. WFAS-004: 2009 Manipulation of Scalp Acupuncture

すなわち、鍼の規格、耳鍼の経穴名と位置、灸の手技、頭鍼の手技の4つである。

譚氏より補足として、標準化には手技の標準化 (Technical Standard)、行政における標準化 (Administrative Standard)、教育における標準化 (Educational Standard) などがあるが、本委員会では前2者に絞って作業を行いたいとの発言があった。

その後ディスカッションの時間となったが、日本 (形井) より鍼灸の標準化に関しては、まず1998年にWHOにより頭鍼の標準化が行われている、また現在ISOにおいても作業が進みつつある。それらとWFASにおける標準化とはどのように棲み分けるのかと質した。それに対して、劉氏からは、世界にはWHOやISOによる標準があるが、WFASの方針としてはそれらと同じ作業を繰り返すことはせず産業上の標準化 (Industrial standard) を目標とするという返答があった。

続けて、Denis Colin氏 (フランス: 今大会会長) からWFAS標準を作ってISOに申請 (propose) するのが望ましいという発言があった。Judy James氏 (オーストラリア) からはISOやINSA (韓国主導の鍼の規格に関する標準化会議: International network for developing standards for acupuncture and related techniques) などの活動を見据えながら進めて行く必要があるとの助言があった。

劉氏から、今回の会議ではこのプロジェクトの基本方針 (principle) について検討し、今回の会議の議事録とともに各位へ送るという発言とともに、参加各位は自分の名刺にどのWGに参加したいかを書いて提出するように依頼があった。また、各WGの活動費については各自で用意するという発言が劉氏からあり会場がざわめいた。劉氏は標準化プロジェクトを2年で完成させたいということで締めくくったが、それに対してColin氏は、ISOに提案するためにはISOより早く完成

させる必要があるとの意見を述べた。WGへの参加については、日本側はその場で各WGに参加表明をすることはせず、後に回答すると返事した。

その後、灸の標準化についての意見があったが、今回のWFAS標準化案とWHO、ISOにおける標準化計画との関連について明確でなかったため、日本（石崎）より再度質問した。また、形井からも重ねてWFAS事務局に対して回答を求めた。劉氏は、WFASにおいて鍼灸の基本的な領域における標準化案を作成し、それらをISOやWHOに提案する、あるいはWFASの作る標準化案は職業上の標準化案（professional standard）であるがそれを国際的な標準化案（International Standard）に持って行くために活動していくといった旨の回答があった。それに対して日本側が十分に納得しなかったため、形井よりJudy James氏に特にISOに関する現状を説明するように依頼した。実際その場の参加者のうち、ISO関連会議にも出席して事情がよくわかっているのは、Judy James氏、Kin Yong-Suk氏（韓国）などごくわずかであったからである。Judy James氏からISOにおけるTC（技術専門委員会：Technical Committee）249とTC215に関する簡単な説明があった。すなわち、鍼灸に関する標準化はこのTC249（本TCのタイトルはまだ決まっていない。中国はTCM: Traditional Chinese Medicineを主張し、日本・韓国はTEAM: Traditional East Asian Medicineを主張している）とTC215（医療情報: Health Informatics）の2つによって進んでいるといったことである（ISOの動きに関する詳細は文献<sup>3)</sup>を参照）。その後、少し議論があったが、劉氏より再度、WFASより今回のプロジェクトの基本方針（principle）と作業手順（work procedure）を参加各位に送るから、それに対して意見を出してほしいとの発言をもって会議を終了し、晩餐に移った。時刻は午後9時30分であった。

## おわりに

WFASに関しては、前号でも報告したが<sup>4)</sup>、その運営方法には大きな問題があると思われる。今回参加した2つの会議においても同様で、その構成メンバーが明らかにされていない、基本方針や

作業手順を決めるまえに実際の具体案（ドラフト）が配布される、会議の議事録が作成されない、などなどである。WFAS執行部の発言を聞くと、それらの重要性については再三言及されているので、ある程度は認識しているものと思われるが、こうした国際的なプロジェクトを遂行するに際しては、先ず、委員会の構成メンバーを確定し、次に基本方針と作業手順を決め、その後具体的な作業に入って検討する、また、それぞれの委員会や小グループによる議論の議事録を作成して、全体に対して開示するといった当然のルールがある。残念ながらWFASにおいてはこれらのことが実行された試しがない。今後どのようにして改善を促していけばよいのか・・・大きな課題である。

## 文 献

- 1) 若山育郎. WFASの今後とJSAMとしての関わり方について－2007年WFAS20周年祈念学術大会（北京）参加報告－. 全日鍼灸会誌. 2008; 58(1): 93-101.
- 2) 若山育郎, 高澤直美, 東郷俊宏, 津谷喜一郎. 2008年WHO Congress on Traditional Medicine（北京）参加報告. 全日鍼灸会誌. 2009; 59(1): 47-51.
- 3) 若山育郎, 関隆志, 高澤直美, 東郷俊宏, 津谷喜一郎. 特別座談会 WFAS世界鍼灸学会連合学術大会 in ストラスブールを終えて－鍼灸の国際標準化と中国の動向－. 医道の日本. 2010; 69(3): 23-36.
- 4) 若山育郎, 高澤直美, 石崎直人, 津嘉山洋, 津谷喜一郎. 第7回WFAS世界鍼灸学術大会（フランス・ストラスブール）参加報告－執行理事改選およびJSAMからWFAS執行部への提案－. 全日鍼灸会誌. 2010; 60(1): 91-9.

WFAS Report
-------------

## **Report of 2009 WFAS University Cooperation Working Committee and WFAS Standard Working Committee**

WAKAYAMA Ikuro<sup>1)</sup>, TAKAZAWA Naomi<sup>1)</sup>, ISHIZAKI Naoto<sup>1)</sup>  
TSUKAYAMA Hiroshi<sup>1)</sup>, SHINOHARA Shoji<sup>2)</sup>, KATAI Shuichi<sup>3)</sup>

1) Department of International Affairs, JSAM

2) Editorial Committee, JSAM

3) Councilor, JSAM

### Abstract

The WFAS University Cooperation Working Committee and WFAS Standard Working Committee were held during 2009 WFAS World Acupuncture Congress at European Parliament in Strasbourg, France on 6 November 2009. Publishing an International Textbook of Acupuncture and Moxibustion was proposed in the WFAS University Cooperation Working Committee. Also establishing Making WFAS standards on acupuncture needles, nomenclature and location of auricular points, manipulation of moxibustion, and manipulation of scalp acupuncture were discussed and proposed in the WFAS Standard Working Committee.

*Zen Nihon Shinkyu Gakkai Zasshi (Journal of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion: JJSAM), 2010; 60(2): 255-260*

Key words: WFAS, International Textbook, Acupuncture Standardization, ISO